

ボーイスカウト関係役員の皆さま

いつもスカウト活動にご尽力いただき大変ありがとうございます。

今回は加盟員減少につきスポットを当ててみたいと思います。

新藤の勝手な思いを書いてみました、皆さんと共に一時も早く行動を起こしていかないと益々厳しい状況になってしまいますので、良い知恵がありましたらお知らせいただきたく、また実行をお願い申し上げます。

中途退団者の抑制に頑張りましょう！！

日本連盟の加盟員は財団法人最後の21年度末で156,628人（前年比△10,739人）22年度では、149,785人（△6,843人）、23年度では143,272人（△6,513人）となっておりますが、21年度は、スカウティング誌全員購読をお願いした関係で減少が大きいですが、通常年では6500－7000名の減少が発生しており、24年度につきましては、登録費の改定をお願いいたしましたので、10,000人近い減少が見込まれ24年4・5月の登録状況でもそんな予測がみこまれております。

通常の年間減少人員は、22年度を例にとってみますと△6,843人になりますが、実質は新規加入が15,618人おりますので、退団したスカウトは何と、22,461人にもなります。辞めたスカウト達のなかで、ビーバー、カブスカウトのウエイトが高く、退団者22,461人のうち13,486人と約60%を占めております。またその半分以上をビーバースカウトが占めております。

中途退団或いは上進しないスカウトへの対策として、まず、ビーバー、カブスカウトにフォーカスしなければなりません。スカウト活動に入って1・2年で辞めていくことについてビーバー隊長は何を考えているのだということになります。指導者養成委員会、会員拡充委員会としてもこのことを重視したフォロー体制を検討頂きたいものです。カブスカウトの場合はボーイ課程への上進の処が保護者も、スカウトも将来の方向性として悩むところではないかと思います。

退団したスカウトや保護者からのアンケート調査によると以下のような意見が出てきましたので、この対策も考えていかなければなりません。（スカウト活動をやめた本当の訳とは）

- | | |
|-------------|---|
| 1、プログラムへの不満 | （レベルが低い、新鮮味がない、少年の心をワクワク、ドキドキ感がない） |
| 2、指導者への不満 | （指導者としての適性に疑問、技能レベルが低い、時間の使い方にメリハリがない、子供たちとの関係にもけじめがない） |
| 3、組織への失望感 | （理念と現実とのギャップ、活動方針が明確でない、奉仕の強要が多いなど） |

このアンケートに対する個別の対策については、プログラム委員会、指導者養成委員会あるいは会員拡張委員会などのお力添えを頂きながら早急に検討を進めて頂きますが、日本のスカウト運動としては、長期的視点での目標をスカウト対象青少年人口の1%は、スカウト活動に入れようと決めました。このことは、それぞれの団が、危機感を持って真剣に取り組んでいたかないと、ボーイスカウト運動は近々成り立たなくなってしまうです。日本連盟の役員や、県連盟の役員が幾ら喚いても根本的にはそれぞれの団がその気になって新規採用や、退団防止策に取り組まないとだんだん行ってしまう。

過去の実績値を見てみますと

年度	加入スカウト	退団スカウト	差し引き数
H12年	28,813人 (100%)	36,391人 (100%)	△7,578人 (10年前)
H17年	22,066人 (76.6%)	29,966人 (82.3%)	△7,900人 (5年前)
H22年	15,618人 (54.2%)	22,461人 (61.7%)	△6,843人

この数字が示すように、10年前の数字をベースにすると5年前も、現在ともに入団者の数よりも退団者の数字が多く、しかもその比率も退団者の方が多くなっております。入る人は10年前の54%で、やめる人は62%もやめているのです。ということは、ビーバー、カブスカウトのプログラム、指導者養成に課題があるものと考えなければなりません。

そのためにまず、以下の三つの活動をしっかり行いましょう。

1、入る人を増やす活動 (新規加盟実績 22年度15,618人で年々減少している)

- ・ 募集活動は、団全体でビーバーのみでなくカブスカウトにも広げて取り組む必要があります。
 - ・ 日本連盟の募集パンフレットが具体的に活用できないのなら、実際に使えるような試案を作って頂くように事務局に要望を出して下さい。
 - ・ 母親の口込みが大変有効的と各地で言われているのでうまく活用出来るようにし保護者会にて検討して下さい。
 - ・ 集会時に募集イベント体験活動に参加させる。
 - ・ 団会議、団委員会などの活性化を図りながら募集の検討を加える。
 - ・ 16NJ&23WSJなどのイベントを募集活動に活用する。
 - ・ 県議会BS振興議員連盟や教育委員会の支援も大いに活用してください。
- (普段の連携が大切)

2、上進率の向上を図る活動

- ・ 楽しいスカウト活動の展開 (班制教育・進歩制度を正しく実施展開)スカウト活動の特徴
- ・ 隊長と保護者との日頃からの連携強化。(保護者の顧客満足度の確認)
- ・ スカウト運動の重要性を保護者への理解度を高める活動を行う。
(保護者説明会の定型化を実施)
- ・ 隊長がスカウトを全員上進させることに「こだわり」をもつこと。
(スカウトが止めることにも)

- ・ 地区のラウンドテーブルの中での情報交換会
 - ・ 現在の上進の時期は適切だろうか、・・・・・・4月と9月の2回があるが・・・・
- 小学生時代のスカウトの上進時期は、4月が一般的な区切りですのでこれに合わせたほうが保護者としても対応がしやすいと思う。ボーイからベンチャーへの上進は活動の区切りとして9月上進でもよいと思うが、部門ごとにプログラム委員会として再検討してほしい。

3、辞める人を減らす活動（団としての重点課題である）

- ・ スカウトに慕われ、保護者に信頼され、スカウトを成長させられる指導者の養成
（隊長としてプログラムの工夫をする）・・・・ラウンドテーブルやインサービスサポート
- ・ 団内の連携強化のため団会議の実施&団委員会のバックアップ
- ・ 隊長とスカウトのコミュニケーション向上(進級対応・欠席対応など)
- ・ 育成会・団委員会の充実と隊活動の活性化を図る(団委員長的情熱を)・・・・隊長のフォロー
- ・ 地区委員会&地区団委員長連絡会などで、保護者に対するスカウト運動理解向上を検討す。

*** 母親が子供をスカウト活動に入れた期待値はなんだったのだろう???**

- ・ スカウトに入れて子供は変わったのか??（挨拶ができるようになったとか!!）
- ・ 親の期待値通りに育ったのか??・・・・隊長さん把握してますか、保護者に聞いておられますか??
- ・ ビーバーに入ったら、子供が礼儀正しくなったとか、
- ・ 隊長は、常に保護者の顧客満足度を(CS)意識して活動していますか??
- ・ 保護者としては、子供をスカウト活動にいれることで、規律ある子、元気な子、明るい子、協調性のある子、リーダーシップの発揮できる子、そしてコストパフォーマンスなどを考えるものです。
- ・ 保護者にコストパフォーマンスのことを言われるようになったら、スカウト活動に対する不満が表れ始めているのです（子供の成長がなくコストばかりが気になる??）
- ・ 2015年日本開催の23WSJは、スカウト活動に参加したスカウトたちにとっては大きな魅力のはずです。対象年齢のスカウトに参加できるようにアピールしてください。

ボーイスカウト部門への上進時期がスカウト活動の一つの正念場になります。カブ隊長の腕の見せどころです。如何にボーイスカウト課程に上進させることができるか、ボーイスカウトに上進して、ベンチャー活動や、ローバー活動を経験してこそ、スカウト運動の楽しさを満喫できるのです。隊長さん！スカウト達に楽しさを教えてやって下さいよ！！

24年からは、会員拡充委員会のメンバーは兵庫の南さんのみが継続で他の人は入れ替わりました。委員長は愛知連盟の副理事長船橋さんがお勤め頂けることになり、皆さん新しい感覚で取り組んで頂けることになりました。各県連盟の会員拡充委員長さんたちの、知恵やお力添えを頂き何としてもこの減少傾向に歯止めをかけて行きたいと思っておりますので皆様のご指導ご協力をお願い申し上げます。

前段に書きました、アンケートのようにプログラムに対する不満や、指導者として適正に疑問を感じるなど、保護者から見てそのように感じられるのでは、安心して子供を預けることはできませんし、信頼関係も出てきません、福島プログラム委員長さん、村田指導者養成委員長さん、お互いに連携しながら良いスカウト活動が実現できますようによろしくお願い申し上げます。

またいろいろご意見がございましたらメールを頂ければ幸いです。